



平成13年
10月15日
第104号

発行所
広島県歯科医師会
連
広島市中区富士見町11-9
TEL (082) 241-5525
編集兼発行人 山本忠昭



県知事選

藤田雄山氏の推薦を確認 —— 呉市長選は小笠原氏を推薦 ——

九月十八日(火)午後五時より県歯会館四階「会議室」に於て、第二回理事会が開催された。県知事選挙では藤田雄山氏の推薦を確認した後、協議事項で第十九回参議院議員選挙の総括と今後の対応について協議し、また呉市長選挙に伴う候補者については現職の小笠原臣也氏の推薦が決った。



本山会長から推薦状を受け取る藤田知事

理事会は伊東副会長の開会の辞で始められ、本山会長より「第十九回参議院議員選挙に於ては中原爽先生、議席を確保することができました。これに付きましては先生方のお力添えの賜物であると考えられている。ただ後援会名簿で先生方から四万という数字を載せておりましたが、それが余り効力がなかったということがあります。電話作戦等も先生方には大変御迷惑をお掛けしました。しかし票が伸びなかつたということ、私も選挙に対する考え方の甘さが在ったのではないかと反省をしている。これから、選挙の取り組みは先生方と協議をしながらしっかりとしたものにしていくと考えている。

県知事、呉市長の同日選挙が十一月四日に

り上げしている。⑤本会が受けている補助金を、連盟活動の一部でも使用している。以上の項目をとつても本連盟には該当するところはなく、一切問題はありません。

連盟訴訟につきましては日歯連盟は、連盟規約に基づいて運営されておりKSDとか郵政省のような選挙とは全く異なっているという事をご認識ください。

また問題点は経済財政諮問会議、総合規制改革会議等であるような話が出ています。こういう事につきまして、連盟はちゃんと対処していかなければならないと思っております。全てが政治主導型と言う形の中で物事が決まってきた。心配をされている事は健保本人三割負担、特殊法人の対応としての支払基金業務の在り方、需給問題の中で七十歳定年制、その他特措法、事業税の問題。今から連盟の活動は大事な時期にきています。と挨拶があった。

続いて三戸理事長より

(1)会務報告
(七月、八月)
(2)日歯連盟関係報告について報告があった。続いて次の協議を行った。

(1)第十九回参議院議員選挙の総括と今後の対応について

(2)呉市長選挙に伴う候補者の推薦について
全員一致で現職の小笠原臣也氏を推薦

今回の中原議員の参院選比例区は、結果的には本当に安堵いたしました。しかし、おそらく一生懸命やって頂いた先生方にはご不満な結果ではなからうかと思っております。それにもかかわらず、ご不満な結果ではなからうかと思っております。それにもかかわらず、ご不満な結果ではなからうかと思っております。

財政状況

社会保障にかかわる平成十四年度予算編成について内容が少しづついろいろなものが具体的に出てまいりますが、不安材料といつか、心配をしなければいけない点はかなり出てきていることは事実でございます。一番不安な点は、その諮問会議のする事となった。

(3)その他
最後に佐藤副会長の閉会の辞で終了した。

の中で、医療関係者が一人もお呼びを頂いていなかったということ。なかなか我が国が思っているような理想的な、国民にもわかりやすい理策は、今だ立っておらない。そういうことが一つ確実に言えるので

そのうちの十一兆円が、なんと高齢者医療に使われるわけでございます。これは当然であります。高齢者になれば、体の至るところにいろいろな疾患を持つことは常識として十分わかることでございます。ですから、それなりの手当てをするには、それだけの予算がかかる。なぜ、医療にお金を使っていないのか。これは、国民の望むことではないのですか。こういうことを申し上げるわけでございます。

一つ国民の皆さん方にわかりにくくしている例は、今、三十一兆



みんなで考えよう、と呼びかける大島参議

大島慶久 参議院議員 時局講演会

9月18日(火)午後6時より県歯会館5階「研修室」に於て、標記時局講演会が開催された。主な概要は左記の通り。

の問題がございます。二年前の数値では、国民総医療費が約三十一兆円。

そのうちの十一兆円が、なんと高齢者医療に使われるわけでございます。これは当然であります。高齢者になれば、体の至るところにいろいろな疾患を持つことは常識として十分わかることでございます。ですから、それなりの手当てをするには、それだけの予算がかかる。なぜ、医療にお金を使っていないのか。これは、国民の望むことではないのですか。こういうことを申し上げるわけでございます。

一つ国民の皆さん方にわかりにくくしている例は、今、三十一兆

しかし、GNP（国民総生産）の中で考えますと、世界の中では大体十八位〜二十位前後で、それぞれの国のGNPの中の医療費の占める割合ということになりますと、先進国の中では決して上位ではないんです。そんなに大慌てる程のことをやっているわけではなく。なんとか国民の皆さん方が、そういう納得の上で、今行われようとしている医療の抜本改革というものに理解を示して頂けたらなあと思います。

要するに、私が今お話をさせて頂きましたのは、行き着くところ、今の財政状況なのです。今回の財政諮問会議の中で言われておりますのは、大体社会保障費は一兆円ずつ増えていくわけでありまして、それとあわせて、医療も福祉も介護も合わせて七千億円の圧縮していかうというの、これは既成の事実のようには言われていない。その数値であります。その四つの中の「医療」だけを考えた場合、大体自然増というのが来年度は五千五百億円見込まれております。それを二千七百億円に圧縮しなさい、というのが今回の財政諮問会議の骨子の中にうたい込まれているわけですね。そうしたら、どう補填するのかという事になりまして、小泉総理風には、痛みを伴う構造

厚生労働省案

改革をするのだから、自分の負担を国民にお願いしなければいけない。具体的な言葉として出てきた厚生労働省案として、一つは、高齢者医療の対象を七十歳から七十五歳にしていく。七十五歳の方でも高所得者には自己負担二割をお願いしよう。それから、ここに五番目ぐらいに出てくるのでありますけれども、いわゆる被用者保険の自己負担を三割に。それから、保険料の算定に総報酬制度を導入する。容は、診療報酬体系の見直し、それから薬価制度の見直し。一番タケットにされて困るなあと思えますのは、歯科は技術を中心とした医療を行っているわけですので、今この出来高払いを存続して頂かなければいけない。今回、政府が行なおうとしている効率化のため、診療報酬体系の見直しというの、おそろく丸め診療。包括診療というのを目指しているのではないかと私は思うのであります。

それから三番目が、医療費の総額の伸び率が抑制するために、特に高齢者医療費は、伸び率を設定していく。上限を決めるわけですね。ボータスも加算した中で保険料率を決めるといことですから、保険料率は必ずアップしてきます。そういったことになれば政府管掌保険の保険料率の引き上げということも当然行われる。こういうことではないかと。

なぜ政治力が必要なのか！

一方で経済財政諮問会議の一番根底にある考え方、その基本的なものでは、一つが医療供給体制制度を効率化してコストの削減を図る。それから二番目が質が高く無駄の無い医療のため、医療サービス効率化プログラムを推進する。その内容

容は、診療報酬体系の見直し、それから薬価制度の見直し。一番タケットにされて困るなあと思えますのは、歯科は技術を中心とした医療を行っているわけですので、今この出来高払いを存続して頂かなければいけない。今回、政府が行なおうとしている効率化のため、診療報酬体系の見直しというの、おそろく丸め診療。包括診療というのを目指しているのではないかと私は思うのであります。

それから三番目が、医療費の総額の伸び率が抑制するために、特に高齢者医療費は、伸び率を設定していく。上限を決めるわけですね。ボータスも加算した中で保険料率を決めるといことですから、保険料率は必ずアップしてきます。そういったことになれば政府管掌保険の保険料率の引き上げということも当然行われる。こういうことではないかと。



大島慶久参議院議員時局講

事業税が導入されると50〜60万円以上の増税に

これは、政策的な経費であります。ですから、政策面での議論として、将来一番困るのは、もちろん国民そのものであります。そして、医療機関の我々も困るわけですね。政策面で、こういったことが、改革がよい具合に進んだ中で先送りが出てきて、国民負担ができて、国民負担ができて、議論をいろいろする中で、歯科医療の実態というものを踏まえながら、我々は各国会議員にアピールしていかねばいけない。最終的には、政治決着していくわけでありまして、一生懸命やらせて頂きたい。

事業税について

ただ、それ以外で非常に我々にとつては、メリットがあり、必要な事柄が税制の問題であるのです。一つは、事業税の問題です。社会診療報酬に関わる事業税として、地方税を本来なら納めなければいけないのです。これを免除して頂いていま。しかし、来年からは本当にわかりません。大体の試算ですと、少くないところで、一診療所当たり五十〜六十万円、割合大掛かりにやっております先生のところでしたら、百万円

国会活動の中で

では我々は、これから国会活動の中で何をやっていけばいいのかわからない。今、そういう状況にあることは事実でございます。

歯科医師需給問題

我々の歯科界の環境整備の中で、どうしたら、私達がこれからもまずまずそう心配しないで、生き延びていくの、歯科医師数が、全国にある会員の半分以上になることでしょうか。要するに、需給問題。歯科医師過剰時代を完全に迎えた中で、我々はいろいろな議論をしなければいけない。一番ベースにある問題は、それが本当に古くて

租税特別措置法

それから租税特別措置のうち一つ租税特別措置

連盟支部だより

呉支部

九月十八日（火）午後八時より呉歯会館三階「ホール」に於て幹事委員会が開催された。辰川（恵）専務の挨拶に続き、高橋会長から十一月四日投票の呉市長選では小笠原臣也市長の推薦をお願いしたいとの挨拶があった。次いで質疑応答

○呉市長選について
全会一致で小笠原臣也市長を推薦することに決定
○小笠原臣也を励ます会の決定

新しい問題でありますけれども、需給問題は急には解決できないにしましても、少しずつ着地点を見出し、いかなければいけない。少なくとも、私の過去にも私案的にもありましたが、全国をプロック別にして、そういう学は平成十八年度から、必須化されます研修の場所にするとか、大学院大学にしていくとか、存続できる限り、そういう措置をしながら、残るものは残るといようなことを考えながら、需給問題としては、やはり切り込んでいかなければいけないだろうと思っております。もちろん私立の大学も、経営というものも考えながらおやりになっておられると思いますが、そこは手付かずというわけには、おそらくまわらないだろうと。それから、そういう状況に置かれることも想定しながら、需給問題と

その後、藤井（弘）副会長の「慢心せず全員で現市長を推す様」との言葉で閉会となった。